

## 南伊豆町の磯観察の達人に感謝状

7日、杉並区役所では、静岡県南伊豆町の大野良司（69歳）さんへの感謝状贈呈式が行われました。大野さんは、杉並区の小学6年生への磯観察の指導を行っていて、この活動が10年目を迎えたことから、杉並区教育委員会から感謝状を贈呈しました。

平成27年12月、杉並区は「まち・ひと・仕事創生法」に基づく総合戦略を策定しました。この総合戦略の基本目標の一つが、「地方との連携により、豊かな暮らしをつくる」としています。杉並区は、人口が56万人を超え、過去最多の水準になっていますが、その支えになっているのは、地方からの若者世代の流入です。地方に、若者世代がいなくなれば、やがて首都圏の人口も下降することが見込まれています。そこで、区は交流自治体との連携を深め、共存共栄を目指しています。

その交流自治体の中に、静岡県南伊豆町があります。南伊豆町とは、全国初の圏域外に特別養護老人ホームの共同設置を進めています。また、元気な高齢者を中心に移住を支援するなど、自治体間の連携を深め様々な交流を重ねています。さらに、杉並区民にとって、最も親近感を抱く事業が、昭和55年から続いている移動教室です。渚百選にも選ばれている弓ヶ浜の近くの校外施設で、自然体験を行うもので、区立小学校の6年生が対象となっています。

その南伊豆の移動教室の中でも、児童たちが最も印象に残っているのが、磯の生物観察です。そして、この観察に欠かせないのが、大野良司さんの存在です。現在、大野さんは、施設がある湊地区の区長という肩書きを持っています。湊地区の代々漁師の家で生まれ育っているので、ここの海のことならわからないことはありません。10年前、磯観察の安全確保のための案内役を頼まれていましたが、あるとき大雨で磯の観察に行くことができなくなり、それではと大野さんが、南伊豆の海のこと、漁のことなどを話すと、子どもたちが身を乗り出して話を聞いてくれたことをきっかけに、講師役を務めるようになりました。もっと多くのことを知ってもらいたい、南伊豆を好きになってもらいたいと続けてきて、気がつけば10年目を迎えました。関わった子どもは、5万人ほどになりました。

7日午前9時、大野さんへの感謝状が教育長から手渡されました。大野さんは、「今後も、子どもたちに南伊豆の海の美しさや珍しい生き物が生息する海の豊かさを知ってもらい、いつか家族を連れて遊びに来てもらいたいです」と笑顔で話していました。大野さんの活動が、まちへの親近感や愛着を持つきっかけになって、市民レベルの交流につながることでしょう。

